



平成25年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月14日

上場会社名 株式会社ウェッジホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 2388 URL http://www.wedge-hd.com/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田代 宗雄  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 横山 幸弘 (TEL) 03-6225-2207  
 四半期報告書提出予定日 平成25年8月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け )

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年9月期第3四半期の連結業績(平成24年10月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年9月期第3四半期	3,533	46.1	735	21.7	821	24.2	614	256.0
24年9月期第3四半期	2,419	△14.2	604	△27.2	661	△17.3	172	△14.4

(注) 包括利益 25年9月期第3四半期 2,342百万円(377.6%) 24年9月期第3四半期 490百万円(7.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年9月期第3四半期	2,276.20	2,044.71
24年9月期第3四半期	639.51	619.62

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年9月期第3四半期	18,962	10,159	30.9
24年9月期	10,456	6,503	42.5

(参考) 自己資本 25年9月期第3四半期 5,851百万円 24年9月期 4,442百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年9月期	—	0.00	—	—	—
25年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年9月期の連結業績予想(平成24年10月1日～平成25年9月30日)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,900	47.6	950	12.7	1,050	17.4	650	277.3	2,402.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年9月期3Q	272,636株	24年9月期	270,286株
② 期末自己株式数	25年9月期3Q	394株	24年9月期	394株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年9月期3Q	269,909株	24年9月期3Q	269,892株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P2「連結経営成績に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) セグメント情報等	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当社グループは当第3四半期連結累計期間においては、増収増益を達成いたしました。売上高は35億33百万円(前年同四半期比46.1%増)、営業利益は7億35百万円(同21.7%増)、経常利益は8億21百万円(同24.2%増)、四半期純利益は6億14百万円(同256.0%増)となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるマクロ経済は、日本国内ではアベノミクスによる期待感から円安株高傾向となり実体経済への波及も見えはじめております。アジア諸国をはじめとする新興国でも成長に陰りがみられ、今後の先行きが注目されております。

当社グループは前連結会計年度において策定した中期経営計画「アクセルプラン2012」に定めた方針に基づき、ファイナンス事業並びにコンテンツ事業を中核とした事業展開を図っております。タイ王国におけるファイナンス事業はタイ国内での急速な成長を持続しながら、さらにカンボジア王国へも進出する等、東南アジア地域において事業拡大を図っております。また日本国内で展開する事業においては経営環境の変化に対応した事業強化に取り組んでまいりました。

売上高においては、主にファイナンス事業において、タイ国内で取り組んだ大幅な営業拡大の成功によって、持続的に新規契約数の拡大が続いており、蓄積された契約によって生み出される売上高の拡大が顕著となりました。その結果売上高は大幅な拡大となりました。営業利益においても、ファイナンス事業の営業拡大が牽引し、増益となりました。一方、四半期純利益においてはファイナンス事業子会社の純資産が大きく増加したことに伴う持分変動利益を1億90百万円計上したこと並びに負ののれん発生益を2億58百万円計上したこと等の影響もあり、256.0%増となりました。

なお、売上高及び各利益項目全般に関して、前年同四半期と比較し円安が進行しておりますことから海外事業の収益は円建てで増加することとなりました。(当社グループにおける主要な海外事業通貨であるタイバーツに関しては平均為替レートが前年同期の1バーツ2.53円から3.03円と円安が進行し、海外での収益は円建てでは前年同期比で約20%増加する影響を受けております。)

なお、上記金額に消費税等は含まれておりません。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ① ファイナンス事業

ファイナンス事業の当第3四半期連結累計期間における業績は、大幅な増収増益となりました。これはタイ国内での営業拡大によって蓄積された契約に伴い売上高が拡大していることに起因します。現在、事業拡大を目指しての費用増は続いております。売上高の増加がこれら費用増を上回る状態が続いております。加えて円安による影響により円建てでの収益がさらに拡大しております。

当事業は、タイ証券取引所一部に上場する連結子会社のGroup Lease PCL. が営むオートバイファイナンスを中心とし、審査や回収のノウハウに独自性を持ち展開しております。

タイ国内を中心に展開するファイナンス事業においては、積極的な成長追求の経営方針のもと新規契約数が急速に拡大を続けております。前年同四半期においては新規契約が洪水被害によって営業停滞していたことも影響し前年同四半期比の契約実績は約1.4倍に及びました。またファイナンス事業において新規契約は平均約3年の回収期間にわたり売上高に貢献します。当第3四半期連結累計期間において、売上高は大幅な増大となりました。

ファイナンス事業においては平成24年3月にARFCビジョンとして事業地域をASEAN全域に拡大する方針を発表し、現在ではカンボジア王国での事業展開を開始いたしました。現在のタイ国内における営業の急拡大、並びにカンボジア等のASEAN全域展開のために、人件費の増加、新事業展開のための一部先行投資的な費用の発生があります。これは東南アジア全体において大きな投資機会が存在し、これまで以上の事業成長をサポートするためのものであり、必要かつ有益な費用拡大であると考えております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における現地通貨建ての業績は、売上高は9億59百万バーツ(前年同四半期比55.4%増)、セグメント利益(営業利益)は2億94百万バーツ(同24.9%増)となりました。

又、連結業績に関しては円安が大きな影響を与え、円建ての業績では、売上高は29億7百万円(前年同四半期比86.1%増)、セグメント利益(営業利益)は8億70百万円(同48.8%増)となりました。

② コンテンツ事業

コンテンツ事業は、減収減益となりました。これは過去最高であった前年同期に比べ売上高が減少し、先行投資的費用が増加したことによるものです。

当事業は、主にトレーディングカードゲーム制作やエンターテインメント関連の書籍及び電子書籍の制作、音楽及び関連商品の製作を行っており、様々なコンテンツを商品化する企画制作・編集・制作に独自性を持ち展開しております。

売上高については、カードゲームのロイヤリティ収入が過去最高水準となっておりました前年同期と比べて低調に推移していること、またエンターテインメント関連の書籍類の編集事業についても当第3四半期連結累計期間では前年同期と比べて出版点数が減少となった影響から減収となりました。音楽及び関連商品については堅調に推移し、新規のカードゲーム開発が拡大したものの全体では17.4%の減収となりました。

これらの諸活動の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高4億47百万円（前年同四半期比17.4%減）、セグメント利益（営業利益）は77百万円（同62.7%減）と減益となりました。

③ 物販事業

物販事業は、平成25年2月25日をもって、連結損益の取り込みから除外されております。従って、第3四半期連結累計期間の業績は第2四半期連結累計期間と同じ、売上高1億76百万円、セグメント利益3百万円となっております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べて85億5百万円増加し、189億62百万円となりました。

流動資産は76億20百万円増加し、151億58百万円となりました。主な内訳はファイナンス事業における新規契約数増加に伴う営業貸付金の増加64億24百万円であります。

固定資産は8億84百万円増加し、38億3百万円となりました。主な内訳は有形固定資産の増加44百万円、無形固定資産の増加75百万円、投資その他の資産の増加7億64百万円であります。

流動負債は24億14百万円増加し、48億32百万円となりました。主な内訳は1年内返済予定の長期借入金の増加22億78百万円であります。

固定負債は24億34百万円増加し、39億69百万円となりました。主な内訳は長期借入金の増加23億86百万円であります。

純資産は36億56百万円増加し、101億59百万円となりました。主な内訳は四半期純利益の計上による利益剰余金の増加6億14百万円、為替換算調整勘定の増加7億59百万円、少数株主持分の増加22億46百万円等であります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間において、計上を予定していた投資有価証券売却益10億5百万円につきまして、取引の内容を改めて精査した結果、時価による売却を行い特別利益を計上するのではなく、簿価により売却処理として、同日取得した有価証券の取得価額を下げることで10億5百万円を含み益として財務諸表上表示することが、より適切な会計処理であるとの判断に至りましたため、投資有価証券売却益の計上を行わないことといたしました。

また、取得した有価証券の取得価額が大幅に低下したこととなり、取得資産の純資産額と比較して大幅に低い価格で取得することとなった結果、連結決算において負ののれん発生益を特別利益として2億58百万円計上することとなりました。

当社グループには東南アジア全体において投資機会が多数存在しており、積極的な人的物的資源の投入を行っていること等の影響も踏まえ、通期の連結業績予想を修正することといたします。第3四半期連結累計期間までの進捗状況と第4四半期の見込み数値を鑑みた結果、売上高は前回発表を4億円上回る49億円、営業利益は3億円下回る9億50百万円、経常利益は2億円下回る10億50百万円にそれぞれ修正いたします。当期純利益につきましては、上記に記載しました投資有価証券売却益の計上予定の変更並びに負ののれん発生益の計上に伴い、前回発表を7億50百万円下回る6億50百万円へ修正いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年10月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。

(4) 追加情報

重要な引当金の計上基準

(訴訟損失引当金)

訴訟に係る損失に備えるため、将来発生する可能性のある損失を見積もり、必要と認められる額を計上しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	346,165	1,224,355
受取手形及び売掛金	173,418	122,009
営業貸付金	6,735,505	13,160,245
商品及び製品	51,756	19,986
仕掛品	18,792	19,016
原材料及び貯蔵品	44,381	89,786
繰延税金資産	69,442	45,450
その他	425,835	985,103
貸倒引当金	△327,943	△507,639
流動資産合計	7,537,356	15,158,316
固定資産		
有形固定資産	152,311	196,702
無形固定資産		
のれん	548,121	620,852
その他	1,955	4,241
無形固定資産合計	550,076	625,093
投資その他の資産		
関係会社株式	1,281,973	1,630,442
長期貸付金	619,919	619,919
破産更生債権等	365,905	596,098
繰延税金資産	72,114	116,451
外国株式購入預託金	94,352	24,218
その他	148,691	591,019
貸倒引当金	△365,903	△596,098
投資その他の資産合計	2,217,052	2,982,050
固定資産合計	2,919,440	3,803,846
資産合計	10,456,797	18,962,162

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	71,610	80,302
1年内償還予定の社債	10,000	20,000
短期借入金	78,624	82,000
1年内返済予定の長期借入金	1,910,439	4,188,951
未払法人税等	57,937	183,565
引当金	56,184	57,537
その他	232,973	220,053
流動負債合計	2,417,769	4,832,410
固定負債		
社債	40,000	75,000
長期借入金	1,475,681	3,862,337
繰延税金負債	8,210	14,372
その他	11,889	18,276
固定負債合計	1,535,781	3,969,985
負債合計	3,953,551	8,802,395
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,939,143	1,956,525
資本剰余金	3,120,863	3,138,245
利益剰余金	△285,004	329,363
自己株式	△40,961	△40,961
株主資本合計	4,734,041	5,383,173
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△291,226	468,565
その他の包括利益累計額合計	△291,226	468,565
新株予約権	11,600	13,116
少数株主持分	2,048,830	4,294,911
純資産合計	6,503,246	10,159,766
負債純資産合計	10,456,797	18,962,162

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第3四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年6月30日)
売上高	2,419,212	3,533,668
売上原価	810,059	915,327
売上総利益	1,609,153	2,618,340
販売費及び一般管理費	1,004,515	1,882,687
営業利益	604,637	735,653
営業外収益		
受取利息	27,424	20,821
持分法による投資利益	—	29,787
為替差益	38,092	30,800
その他	4,598	9,880
営業外収益合計	70,115	91,290
営業外費用		
支払利息	3,491	2,171
持分法による投資損失	8,563	—
租税公課	—	2,237
その他	1,412	1,475
営業外費用合計	13,467	5,883
経常利益	661,284	821,059
特別利益		
負ののれん発生益	—	258,607
持分変動利益	201	190,595
新株予約権戻入益	7,236	—
特別利益合計	7,437	449,202
特別損失		
訴訟損失引当金繰入額	—	7,000
減損損失	8,416	—
持分変動損失	31,383	—
事業譲渡損失	—	3,333
特別損失合計	39,799	10,333
税金等調整前四半期純利益	628,922	1,259,928
法人税、住民税及び事業税	126,114	222,014
法人税等調整額	92,369	15,100
法人税等合計	218,483	237,114
少数株主損益調整前四半期純利益	410,438	1,022,813
少数株主利益	237,840	408,445
四半期純利益	172,598	614,367

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	410,438	1,022,813
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	57,493	1,000,766
持分法適用会社に対する持分相当額	22,511	318,681
その他の包括利益合計	80,005	1,319,447
四半期包括利益	490,443	2,342,261
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	217,845	1,374,159
少数株主に係る四半期包括利益	272,598	968,101

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	ファイ ナンス事業	コンテ ンツ事業	物販事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,562,791	541,487	313,679	2,417,959	1,252	2,419,212	—	2,419,212
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,562,791	541,487	313,679	2,417,959	1,252	2,419,212	—	2,419,212
セグメント利益 又は損失(△)	584,846	206,886	△16,512	775,220	△23,957	751,263	△146,625	604,637

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、新規事業開発・事業インキュベーション等及び投資育成事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△146,625千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、その主なものは本社の管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「物販事業」セグメントにおいて、ソフトウェア等の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において8,416千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 平成24年10月1日 至 平成25年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	ファイナ ンス事業	コンテン ツ事業	物販事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	2,907,625	447,510	176,961	3,532,098	1,570	3,533,668	—	3,533,668
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	2,907,625	447,510	176,961	3,532,098	1,570	3,533,668	—	3,533,668
セグメント利益 又は損失(△)	870,018	77,083	3,933	951,035	△71,267	879,767	△144,114	735,653

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、新規事業開発等及び投資育成事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△144,114千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、その主なものは本社の管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 物販事業は、平成25年2月26日に事業譲渡を行い、残余処理を除き当事業から撤退しております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

ファイナンス事業において、GL Finance PLC.の株式を新規取得し、当社の連結子会社としたことに伴い発生したのれんを145,394千円計上しております。

(重要な負ののれん発生益)

ファイナンス事業において、Group Lease PCL.の株式を追加取得したことに伴い発生した負ののれんの発生益を258,607千円計上しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。